



花丸建工
代表

笠鳥 英樹

長野県出身。運送業界で働いた後、木造大工の親方の下で、5年ほど修業を重ねる。そこを離れさらに3年間技術を磨き、2000年に本格的に独立、2014年頃から本格的に東京進出を果たした。現在は住宅や店舗の設計・施工を主業務としつつ、関東圏に住む人が長野県に別荘を建てる際の窓口としても活動している。

積極的な提案で理想の住宅・店舗を実現 地方創生にも力を注ぐ誠実な大工職人

住宅や店舗、別荘などの設計・施工を手掛ける花丸建工の笠鳥代表。長野県から都内へ進出した背景には、地元の業界活性化という広い視野に基づいた考えがあった。自身も職人肌の野球選手として活躍した鈴木尚広さんが、職人として現場に出続ける代表にインタビュー。

大工が魅せる店舗づくり

鈴木 こちらの飲食店は、笠鳥代表が内装を手掛けられたと伺っています。デザインが凝っていて面白いですね。
笠鳥 ほとんど一人で手掛けたので、そう言って頂けると嬉しく思います。私は寺社仏閣に興味があり、目立つ建築が好きなんです。もともと木造大工として建築業界に入り、10年近く修業を重ねて独立したのですが、近年は用意された材料を組み立てるだけの建築が増えていて…。それだと大工が魅せる部分がなく、面白みがありません。そこで、「自分が仕上げたものがそのまま絵になるような建築をしたい」と考え、个性的な店舗の内装を手掛けるようになりました。こうした仕事は、職人が成長する機会に

もなりますしね。
鈴木 すると、今では自分のこだわりを表現しやすい環境にあると。
笠鳥 ええ。私は「懐かしいのに新しいもの」を目指してデザインしており、却下されてしまうアイデアもありますが、思い付いたことは積極的に提案するようにしています。そうすることで、お客様の要望をかなえる建築ができると思うのです。例えば、「周りの視線が気にならない、かと言って閉塞感もない席がほしい」「カフェのような焼肉屋にしたい」など。私は代表となった今でも現場に出て、打ち合わせからCADを使った設計、細かな施工まで、一通り手掛けています。
鈴木 考えを実際に形にするにあたっては、大変な面もありそうです。どのようにイメージを膨らませるのでしょうか。

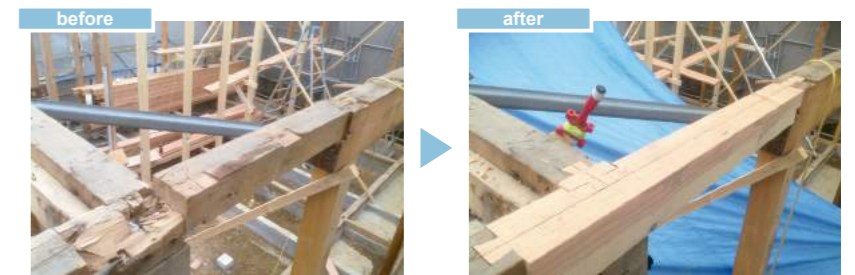
笠鳥 打ち合わせを綿密に行い、長年の経験に基づいて頭の中で何度もシミュレーションしています。最低でも5回は頭の中で完成させ、重要なポイントは心に留め、問題点が発生したら改善策を立てているんです。そこまで入念に準備した上で、実際の施工に取り掛かります。
鈴木 私も現役時代は盗塁のシミュレーションを繰り返していましたから、その感覚はよく分かります。そこまで誠意を尽くして手掛けた施工を終えると、感動も一際なのでは？

笠鳥 完成した建物を目にしたお客様から「ありがとう」という言葉を頂けるのはもちろん、喜んでくれる笑顔を見られるだけでも、この上なく嬉しく思います。また、手掛けた店舗が繁盛しているというのも喜ばしいです。ありがたいことに、これまで手掛けた店舗は、まだ1軒も閉店してなくて——「都市伝説を自分でつくってしまおう！」という意気込みで、仕事の幅を広げていこうと思います。

選手と監督の視点を生かす

鈴木 代表は地元・長野から東京へと活動拠点を移されたそうですが、その理由は何だったのでしょうか。
笠鳥 1つは東京の仕事の件数が多かったことです。また、軽井沢に別荘をお持ちの方、建てようとお考えの方が東京に多いですから、ご依頼を集めたいという思いがあります。その仕事を長野にいる一番弟子・登や大工仲間たちに依頼し、

Focus on the topic **施工の随所に光る大工の腕**



用意された材料を組み立てる建築が増加傾向にある中、大工の腕を魅せる建築を手掛けているのが花丸建工である。写真は、東日本震災の被害を受けた住宅を修繕している際のもの。使える木材はそのまま生かしつつ、破損している部分は新しいものに取り替える。そうした腕を振るえる現場によって、職人たちは技術を磨き続ける。

思う存分に自分の腕を振るえる場を用意したいのです。やはり、お客様と話し合いながら珍しいつくりの建築を手掛ける経験ができると、職人の技術は磨かれ、業界全体の質も向上するはずですから。
鈴木 ご自身の事業のことだけでなく、地元の職人や業界のことまで考えていらっしゃるんですね。
笠鳥 そうですね。実は店舗設計の仕事は、長野の仕事に向けて行動する中で出会ったお客様から頂いている案件が多いんです。また一方で、別荘に興味があるお客様に対しては、建設地を探すサポートも必要になるでしょう。そこで、不動産業界とも連携して、活動していければと考えています。
鈴木 なるほど。現場に出ながら、全体を俯瞰して行動される——代表は、野球で言うと選手と監督、どちらの視点もお持ちなのだと思います。
笠鳥 親方からも「お前は変わったタイ

プの大工になると思う」と言われていました。両方の視点があるからこそ、先を見据えての後輩指導ができると思います。今は自分でやることも多い中で、若手も育てる必要がありますから、しばらくは“選手兼監督”で頑張りたいです。一人前の職人として活躍できるよう、昔ながらの道具の使い方から、チャンスがあれば行動するといった心意気まで、多くのことを後輩たちに伝えていきます。
鈴木 活躍の場がますます広がっていくでしょうね。最後に、これから出会うお客様への、メッセージを頂けますか。
笠鳥 家や別荘を買う、店舗を構える際には、ほとんどの方がローンを組まれますが、それはご自身の命を担保にしているんです。大切なものをお任せくださったお客様に失礼のないよう、これからも誠実に最高の仕事を手掛けてまいります。こだわりの建物の新築・リフォームをお考えの方は、ぜひお声掛けください。



Guest Comment >>

鈴木 尚広 (野球評論家)

ご自身の仕事を「天職だと思う」とおっしゃっていた笠鳥代表。そう思えるのは、仕事をとことん突き詰めてきたからでしょう。職人や業界のことを考えて積極的に行動されている様子からは、誠実さが感じられました。その姿勢も含めて下の世代に伝えていけたら、業界の未来も明るいと思います。いつまでも現役で活躍し続けていってくださいね。